

クレジット:

UTokyo Online Education 東京大学朝日講座 2018 守川 知子

ライセンス:

利用者は、本講義資料を、教育的な目的に限ってページ単位で利用することができます。特に記載のない限り、本講義資料はページ単位でクリエイティブ・コモンズ 表示-非営利-改変禁止 ライセンスの下に提供されています。

<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>

本講義資料内には、東京大学が第三者より許諾を得て利用している画像等や、各種ライセンスによって提供されている画像等が含まれています。個々の画像等を本講義資料から切り離して利用することはできません。個々の画像等の利用については、それぞれの権利者の定めるところに従ってください。



異邦人・異教徒として生きる

近世世界を旅したアルメニア人改宗ムスリム

守川 知子

(東京大学大学院人文社会系研究科)

(16～)17世紀の西アジア社会

●オスマン朝とサファヴィー朝の抗争

コーカサス～東アナトリア～イラクをめぐって

スンナ派とシーア派

★ 領土と宗派の争い

●ヨーロッパ人の来訪

使節, 東インド会社, 宣教師ら

★ 軍事同盟と交易を求めて

©世界の歴史まっぷ

<https://www.sekainorekisi.com/%E3%82%AA%E3%82%B9%E3%83%9E%E3%83%B3%E5%B8%9D%E5%9B%BD%E3%81%A8%E3%82%B5%E3%83%95%E3%82%A1%E3%83%B4%E3%82%A3%E3%83%BC%E6%9C%9D%E3%81%AE%E6%9C%80%E5%A4%A7%E9%A0%98%E5%9F%9F%E5%9C%B0%E5%9B%B3/>

世界の歴史まっぷ



1639年: オスマン朝とサファヴィー朝の和議

「領域国家」化, 軍事同盟重視から交易重視へ

近世のアルメニア人

- キリスト教・アルメニア使徒教会の信徒
- 東アルメニア(州都エレヴァン)を中心に散住
- オスマン朝とサファヴィー朝の係争地
(東アルメニアは, 1639年にサファヴィー朝領に編入)

1603~04年, シャー・アツバーズのコーカサス遠征

1605年, アラス河畔のジュルファー村の住民ら数千戸をイラン各地に「強制移住」: 50000人? ~30万人?

→ 新都イスファハーンに, 「新ジュルファー」街区形成

- 新ジュルファーを中心に, サファヴィー朝の御用商人として, インドやヨーロッパ各地に商業ネットワークを構築

1722年, アフガン人のイスファハーン侵攻により, 世界各地へ

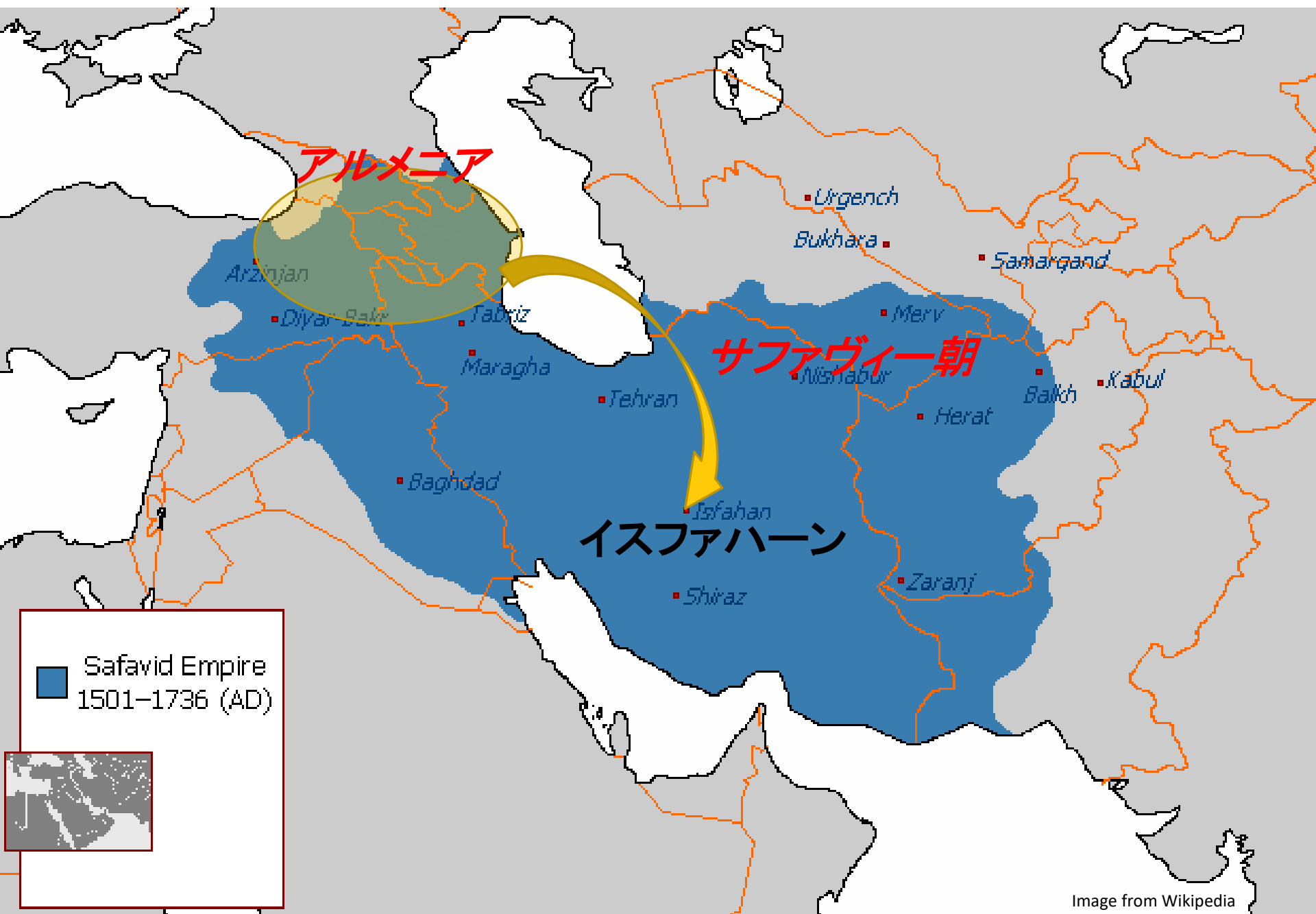


Image from Wikipedia



新ジュルファー街区



Armenische Verlobung-Djolfa

نامزدی ارانسه - جلفا

Armenian wedding in Jolfa

[Höltzer, ca.1880]

アルメニア人 アブガル・ヴァリージャーニアン

イスファハーンの新ジュルファー街区生まれ(1640s 後半)

洗礼名(or愛称)「ホヴハンジャー(愛しのヨハネ)」

ジュルファー村からの移住者一家

新ジュルファーの20名家のひとつ

家業は国際交易の卸商人・豪商, 経済的に裕福

祖父は新ジュルファーに「ベツレヘム教会」を建設



20歳前後でイスラーム教に改宗 ムスリム名「アリー・アクバル(偉大なアリー)」

30年以上の遍歴

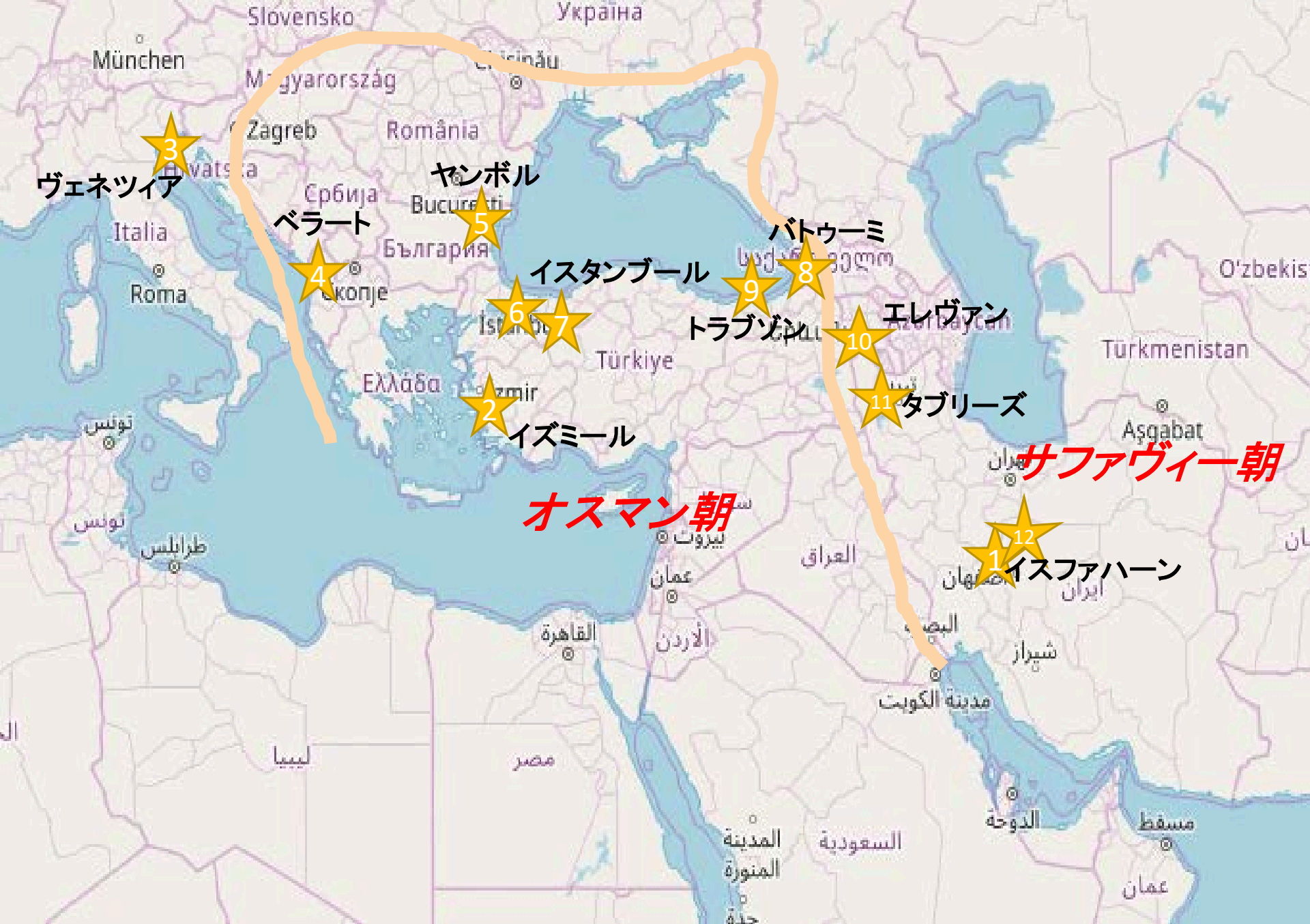
二度の結婚, 子どもは3人

1707/08年にペルシア語で回想録を執筆

イスファハーンで死去







3
ヴェネツィア

4
ベラート

5
ヤンボル

6
イズミール

2
イズミール

オスマン朝

8
バトゥーミ

9
トラブゾン

10
エレヴァン

11
タブリーズ

サファヴィー朝

12
イスファハーン

	都市名	滞在期間	政権	出来事	アルメニア人
1	イスファハーン	～20代半ば頃	サファヴィー朝	新ジュルファー生まれ(1640s), 豪商一族 20歳前後で改宗	○ 17c初 街区
2	イズミール	9ヶ月	オスマン朝	従兄弟とともに交易活動?(1673年頃)	○ 11・12c～
3	ヴェネツィア	8年	ヴェネツィア	技芸習得・交易活動(?), 40日間の投獄 「アザーン」を聴く	○ 12c～
4	ベラート (BRRKAT)	4ヶ月	オスマン朝	交易: 代理人とキャラバン移動(1680s)	○
5	ヤンボル (ブルガリア)	5～6年	オスマン朝	カーディーの娘と結婚, 生活困窮	× 商人あり?
6	イスタンブール	1年?	オスマン朝	義父の死後上京, 娘誕生, 二番目の妻 スンナ=シーア論争に触れる	? 27街区
7	イズミット	渡航準備	オスマン朝	妻の死, イェニチェリに追われる(1691年頃?)	×
8	バトウーミ (ジョージア)	?	オスマン朝	イェニチェリらによって投獄, トラブゾンに 送り返される	×
9	トラブゾン	1年	オスマン朝	? (帰国の準備)	? (17c改宗増加)
10	エレヴァン (アルメニア)	10年	サファヴィー朝	エレヴァン総督のもとで過ごす 司教らと論争, 娘と息子の死 → 夜通しの礼拝(2年半)	○
11	タブリーズ	?	サファヴィー朝	シーア派の集会にたびたび参加	? 教会あり
12	イスファハーン	50代後半?～	サファヴィー朝	新ジュルファーに居住, マシュハド巡礼, 癒し 1707-08年回想録を執筆, 「ジュルファー の新改宗者」	○

アブガルが旅した近世世界(17c)の社会と宗教

★ 各地に進出したアルメニア商人のコミュニティ

Cf. ロンドン、アムステルダム、モスクワ、マルセイユ、ヴェネツィア、イスタンブール、スーラト、チェンナイ、マニラ…

- オスマン朝：イスラーム教・スンナ派
- サファヴィー朝：イスラーム教・シーア派
- ヴェネツィア：キリスト教・ローマ・カトリック教会
- ジョージア(オスマン領)：キリスト教・ジョージア正教
- アルメニア(サファヴィー領)：キリスト教・アルメニア使徒教会

アルメニア人は
どの場所でも
マイノリティ
(異邦人・異教徒)

スンナ派とシーア派の「異端」論争

◆ペドロ・テイシェイラ(ポルトガル人旅行者)の記述(16世紀末)

「シーア派はアリーに従い、スンナ派はムハンマドに従う。」

◆クルスィンスキ(ポーランド人・イエズス会士)の報告(1700年頃)

トルコ人、とりわけ法律の徒(法学者)が道義心や信心の点においてペルシア人に対して抱いている嫌悪やいわばある種の憎悪ははなはだしく、いつでも彼らを攻撃する構えでいる。

学者連中は彼ら(ペルシア人)をあまりにも嫌っているため、「故意の殺人であっても、1人のキリスト教徒を殺害するのと同様に、40人のペルシア人やシーア派(Rāfiḍī)の者どもを殺害することはたいした罪ではない。合法的な戦争においては、40人のキリスト教徒を殺害する以上に、1人のペルシア人(シーア派)を殺害するほうがより賞賛に値する」と、彼らはずねづね言っている。

「新イスラーム改宗者 (*Jadīd al-Islām*)」として(1)

イスファハーンでの改宗後，病気になる

「もしかすると，イエス様の教えのほうが良いのだろうか」という疑念が生じた。昼夜を問わず，私は隠れて泣いた。「どうしてイスラームを選んではまったのだろうか？」

- 新ジュルファー街区からの「放逐」

ヴェネツィアでの孤独

「ヴェネツィアにはムスリムがいない。」

- キリスト教徒との婚姻の勧め，ムスリムとの会話の禁止
- 親戚の讒言により，ムスリムであるがゆえに，投獄される



- ◆ 新イスラーム改宗者としての矜持：アザーンの‘幻聴’

「新イスラーム改宗者(*Jadīd al-Islām*)」として(2)

(Q)「どこの者か？」(A)「イスファハーンの者です。」

(Q)「ムスリムか？」(A)「はい。最初は不信心者でした。ジュルファアの者です。今はムスリムです。」

(Q)「ムスリムになって何年か？」(A)「11年になります。」

(Q)「どうしてムスリムになったのか？」(A)「聖書の句を見てムスリムになりました。」

(Q)「不信心者であることを遺憾に思わないのか？」(A)「神かけて、私はムスリムです。不信心者ではありません。」

(Q)「本当か？」(A)「誓います。」

(Q)「もともとのムスリムか？改宗者か？」(A)「ジュルファアの生まれです。イスラームに改宗しました。」

(Q)「ヨーロッパに行っていたのであれば、彼らの教えとイスラームの教えとどちらが真実か？」(A)「イスラームの教えです。ヨーロッパの人々は不信心者です。」

「新イスラーム改宗者(*Jadīd al-Islām*)」として(3)

オスマン領(ブルガリア・イスタンブール)でのスンナ派への傾倒

- スンナ派カーディー(法官)の娘と結婚
- スンナ派・シーア派ウラマー(学者)の論争

イスタンブールにはシーア派の学者がたくさんいた。
彼らは言った。「我々の教えが真実だ。」
スンナ派の学者は言った。「我々の教えが真実だ。」
私(アブガル)は考え込んでしまった。「どちらの教えが真実なのだろう？」

- パシャやイエニチェリに追われる身
- 「シーア派(Rāfiḍī)」の嫌疑により、投獄される

「新イスラーム改宗者 (*Jadīd al-Islām*)」として(4)

エレヴァン

- 司教たちとの論争

「イエスや他の預言者たちの信仰や教義を信じているか？」

「あらゆる預言者の信仰はひとつです。ですが、あなた方の教義はすべて間違っており、無効 (bātil) です。」

- 子どもの死と信仰へのさらなる傾倒 (= 夜通しの礼拝)

イラン・新ジュルファーにて

- 他人に治癒をほどこすほどに

- マシュハドのイマーム・レザー廟へ2度の参詣

➔ 「**新ジュルファーのアリー・アクバルという名の新改宗者**
(*Jadīd al-Islām*)」



(c)OpenStreetMap contributors



スンナ派への傾倒

スンナ派？
シーア派？
キリスト教徒？

キリスト教徒の中で信仰堅持

私はシーア派ムスリムだ

オスマン朝

イスラーム教へ改宗

個人・家族・地域社会 — 信仰の‘自由’をめぐる

宗教マイノリティ・コミュニティの一員

国際取引に従事する豪商・名家の家系

結婚

- ムスリムの娘をめとることに親族は猛反対
- オスマン朝のカーディー(法官)の娘との結婚

→ アルメニア人コミュニティからの離脱

家族＝個人の信仰
を支える存在

2度の投獄

- ヴェネツィアにて

もし「アブガルが」帰ろうとしたならば、流言を広めるか殺されるか投獄されるかして帰れないように。イランで何度もイエスの悪口を言い、イエスに従う人々を殺し、盗みを働いたのだから。」

- バトウーミ(オスマン領ジョージア)にて

パシャとイエニチェリによって「シーア派」ゆえに、糾弾・投獄

社会が
「異教徒」
を排斥

新ジュルファー・アルメニア人コミュニティの崩壊

1722年のアフガン族のイスファハーン侵攻

1670s: 3,400～3,500戸 → 19c初: 12,883人 (1/5に減少)
1880s: 2,652人

17世紀後半からの「内部」崩壊

政府や外国人宣教師からの同調圧力

↓ (*ジュルファー住民は頑なに拒む)

- 改宗者の増加: 強制／自発的
- 国外への拠点の移動と、移転先での「土着化」

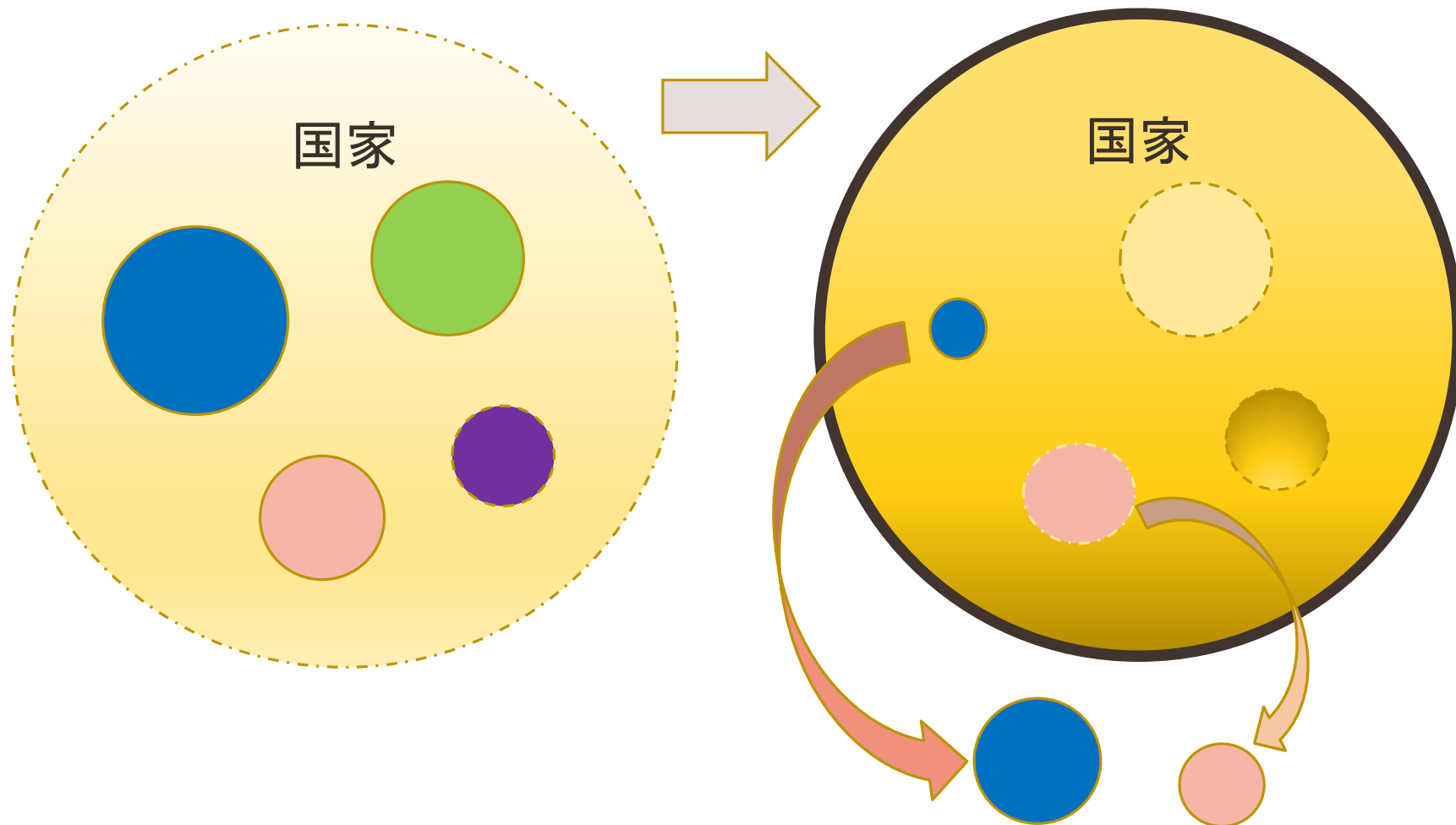
★経済的・社会的理由からの
「自発的改宗」、あるいは「移住・亡命」

⇒ 宗教コミュニティの維持困難

近世西アジア社会の変容

多様な宗教を内包する社会

宗教マイノリティは「改宗」か「移住」



むすびにかえて — 宗教的排他主義の時代へ

Cf. キリシタン禁令・宗門改め制度(16～17世紀)

各地で政権の思想・信条との「同化」が推進される

＝一国一宗派主義

個々人は、「改宗」か、もしくは「亡命(移住)」かを選択

西アジアでは、領域国家の誕生により、

領域国家 = 地域社会 > コミュニティ / 家族 > 個人

同一宗教であっても「宗派」が異なれば「異教徒」となる

**★ 多様な宗教を内包した社会から、宗教的に排他的
(or 画一的)な社会へ**

グループワーク・テーマ

社会(や国家)のアイデンティティ ⇔ 個人のアイデンティティ
つねにイコールとは限らない

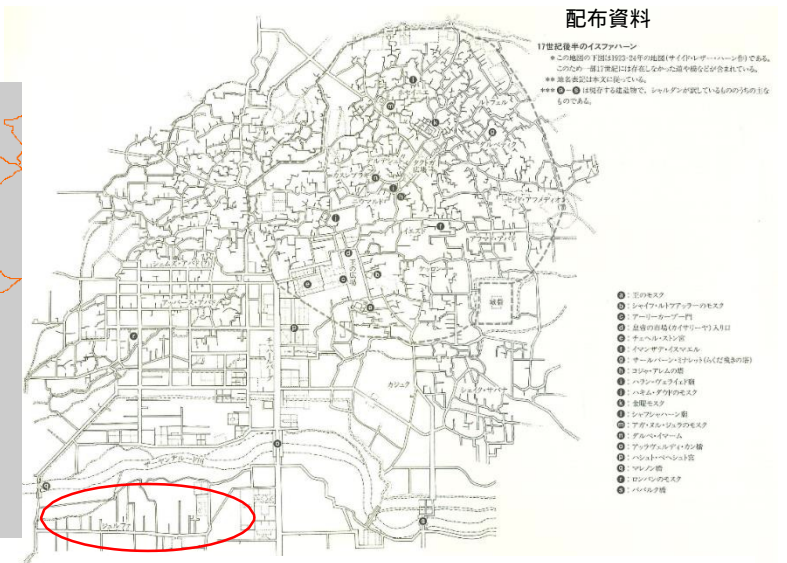
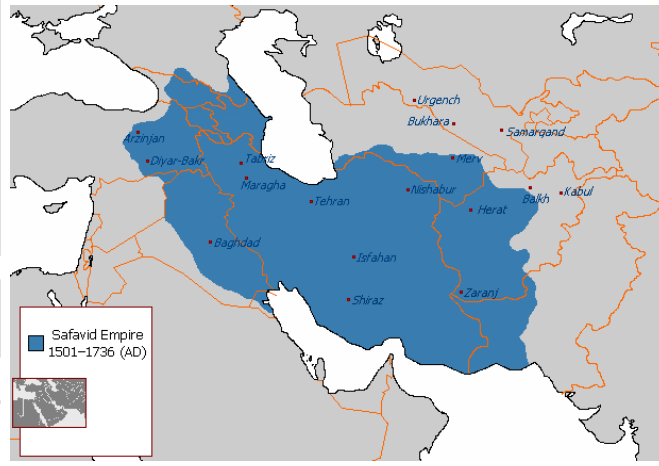
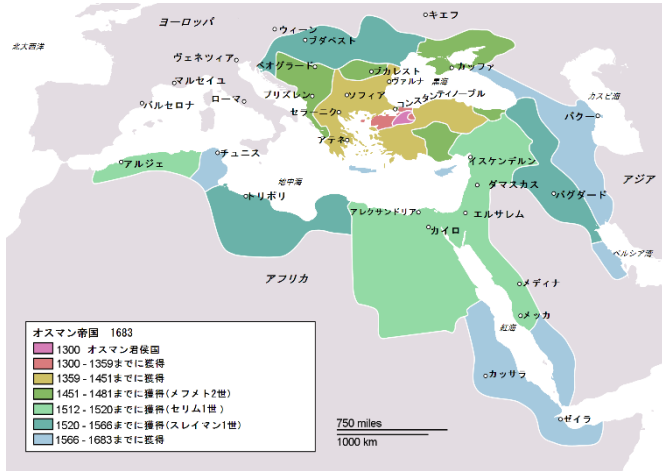
<アルメニア人のアブガルや『ペルセポリス』の著者(主人公)マルジの事例>
家業(就職)・留学・移住・亡命など, 出身コミュニティからの離脱
→ 異なる社会で生活する際の葛藤／“居場所”を求めて

◇ ‘異教徒’ ‘異邦人’ ‘異星人(エイリアン)’ ‘異人’ ‘異端者’ ‘よそ者’ …
ある社会を構成する主たる要素(マジョリティ)とは異なる, ‘異質’ な人(や少数派／マイノリティ)を指す語は多い

◇マイノリティの“居場所”
Cf. 中華街, リトル・トーキョー, 県人会…

★個人としてのアイデンティティをひとつ選び, その人がマイノリティとなる‘場’を設定し, 個人の側およびその‘場’を構成するマジョリティの側から, それぞれの“居場所”対策を考えてみよう。

ex. 共学になったばかりの女子大, 日本に来たムスリム留学生, ハワイの日系移民…



ジャディード・アル=イスラーム
アルメニア人新イスラーム改宗者アブガルの遍歴の生涯

Image by Kentronhayastan, from Wikipedia
CC BY-SA 2.5

羽田正『シャルダン『イスファハーン誌』研究』(東京大学出版会)より

	都市名	滞在期間	政権	出来事	アルメニア人とのかかわり	夢の登場人物
1	イスファハーン	~20代半ば頃	サファヴィー朝	新ジュルファー生まれ (1640年代後半?), 豪商一族 20歳前後で改宗	○ 1605年, 新ジュルファー街区 新設 (非ムスリム街区)	マリア, イエス, '光の男', 祖父
2	イズミール	9ヶ月	オスマン朝	従兄弟とともに交易活動? (1673年頃)	○ 11-12c アルメニア人進出	—
3	ヴェネツィア	8年	ヴェネツィア	技芸習得, 交易活動, 40日間の投獄, 「アザーン」を聴く	○ 12c 進出, 15c 教会建設	ムハンマド
4	ベラート(BRRKAT)	4ヶ月	オスマン朝	交易, 代理人とともにキャラバン移動 (1683年頃?)	○ ?	ヒズル
5	ヤンボル	5~6年	オスマン朝	カーディーの娘と結婚, 生活困窮	× 「アルメニア商人多数いる」	サルマーン・ファールスィー, ムハンマド
6	イスタンブール	1年?	オスマン朝	カーディーの死後上京, 娘誕生, 二番目の妻 スンナ=シーア論争に触れる	? 27街区 (⇔9990ムスリム街区) (17c)	ヒズル, カアバ (メッカ巡礼), ムハンマド, イマーム・レザー
7	イズミット	(渡航準備)	オスマン朝	妻の死, イェニチェリに追われる (1691年頃?)	× ?	—
8	バトゥーミ(KNYA)	?	オスマン朝	イェニチェリらによって投獄, トラブゾンに送り返される	× ? (1879年教会建設)	イマームたち
9	トラブゾン(ABZN)	1年	オスマン朝	? (帰国の準備)	? 1街区・151軒・教会 (16c初)	—
10	エレヴァン	10年	サファヴィー朝	エレヴァン総督のもとで過ごす 司教らと論争, 娘と息子の死 → 夜通しの礼拝 (2年半)	○ アルメニアの州都 17c 市内はムスリムが半数?	母親, ムハンマド, アリー, レザー, 12人のイマーム, ヒズル
11	タブリーズ	?	サファヴィー朝	シーア派の集会にたびたび参加	× 絹交易の中心地, 12c~教会	—
12	イスファハーン	50代後半? ~	サファヴィー朝	新ジュルファーに居住, マシユハド巡礼, 癒しを与える 1707-08年回想録を執筆, 「ジュルファーの新改宗者」	○	—

【文献】 Abgar 'Ali Akbar, *I'tirāf-nāma*, Ed. by M. Sefatgol, Tehran: Ketābkhāne-ye Majlis-e Showrā-ye Islāmī, 2010.